学位論文要約

中国ピアノ作品の「伝統性」と教育的意義に関する研究

―新たなピアノ文化の形成をめざして―

広島大学大学院教育学研究科
教育学習科学専攻　教科教育学分野
音楽文化教育学領域

D173826　　王盛

Ⅰ　論文の構成

序章　本研究の課題と目的
　第１節　研究の背景と課題
　第２節　先行研究の検討
　　第１項　中国ピアノ作品に関する先行研究
　　第２項　中国のピアノ教育に関する先行研究
　　第３項　中国ピアノ文化に関する史的研究
　第３節　研究の目的と方法

第１章　中国ピアノ作品の歴史的概観からみる「伝統性」と中国ピアノ文化
　第１節　中国へのピアノの伝来
　第２節　建国以前（1949 年以前）の中国ピアノ作品
　　第１項　21 世紀初期（1910 年－1934 年）の中国ピアノ作品
　　第２項　チェレプニン主催の作曲コンクール以降（1934 年－1949 年）の中国ピアノ作品
　第３節　建国以降から文化大革命まで（1949 年－1978 年）の中国ピアノ作品
　　第１項　建国初期（1949 年－1966 年）の中国ピアノ作品
　　第２項　文化大革命期（1966 年－1978 年）の中国ピアノ作品
　第４節　改革開放以降（1979 年－現在）の中国ピアノ作品
　第５節　まとめ

第２章　中国のピアノ教育の歴史的概観からみる「伝統性」と中国ピアノ文化
　第１節　建国以前（1949 年以前）の中国のピアノ教育
　　第１項　20 世紀初期の中国のピアノ教育
　　第２項　新文化運動時代（1915 年－1937 年）の中国のピアノ教育
　　第３項　第二次世界大戦と内戦期（1937 年－1949 年）の中国のピアノ教育
　第２節　建国以降から文化大革命まで（1949 年－1978 年）の中国のピアノ教育
　　第１項　建国初期（1949 年－1966 年）の中国のピアノ教育
　　第２項　文化大革命期（1966 年－1978 年）の中国のピアノ教育
　第３節　改革開放以降（1979 年－現在）の中国のピアノ教育
　　第１項　学校での中国のピアノ教育
　　第２項　社会での中国のピアノ教育
　第４節　まとめ

第３章　中国のピアノ教育の現状からみる「伝統性」と中国ピアノ文化

―ピアノ指導者に対するインタビュー調査から―
第１節　インタビュー調査の概要
第１項　インタビュー調査を用いる意図
第２項　インタビュー対象者の選択
第３項　調査方法
第４項　データの分析方法
第５項　調査対象者について
第２節　中国ピアノ作品を用いた中国のピアノ教育の意義
第１項　調査結果
第２項　まとめ
第３節　中国ピアノ作品を用いた中国のピアノ教育の課題
第１項　調査結果
第２項　まとめ

第４章　中国のピアノ教育の現状からみる「伝統性」と中国ピアノ文化
―ピアノ学習者に対するアンケート調査から―
第１節　アンケート調査の概要
第１項　アンケート調査を用いる意図
第２項　アンケート対象者の選択とその所属の概況
第３項　調査方法
第４項　分析方法
第２節　調査結果
第１項　質問項目の分類
第２項　中国ピアノ作品への興味・関心
第３項　中国ピアノ作品の学習状況
第４項　中国のピアノ教材の使用状況について
第３節　まとめ

終章 本研究の成果と今後の課題
第１節　各章の概要
第２節　成果と課題
第１項　成果
第２項　課題

文献

Ⅱ　各章の概要

序章　本研究の課題と目的

中国は1949年の建国以来，1978年までの長期にわたり鎖国政策をとってきた。その間，旧ソ連との一時的な交流期間を除き，外国の文化や音楽を中国に持ち込むことが禁止されていた。その後，1978 年の「改革開放政策」以降は，中国と世界各国の交流が盛んになり，外国の文化や音楽が一気に中国に流入してきた。特に21 世紀に入り，グローバル化が急速に進展してからは，西洋のいわゆるクラシック音楽とポップスが中国に大量に流入するようになり，中国人は様々な音楽に簡単に触れることができるようになった。近年は，中国国内の各種の音楽番組が特に若者の間で人気となり，それを通して流行音楽が広がっている。反対に，こうした現状におされる形で，中国人の中国伝統音楽への興味は薄くなり，その程度は中国伝統音楽が失われるような局面にまで進みつつある。中国伝統音楽を，グローバル化する現代において，どのように伝承していくのかが大きな課題となっているといえる。

ただ，こうした現状の中で中国伝統音楽をそのままの形で継続していくことは非常に難しく，現代に順応させていく方法を考えなければならない。そのような文脈の中で，中国伝統音楽と関わった音楽として，声楽作品やピアノ作品，その他の器楽作品，交響曲などが創作されている。とりわけ中国で創作されたピアノ作品は，ピアノが中国に伝わってから 180 年余りの歴史の中で多くつくられてきた。こうしたいわば中国ピアノ作品は，中国の音楽的要素や文化，西洋の技法や中国人による受容などを踏まえながら発展している。現在，中国ピアノ作品の数は 1000 を超える。それらの作品に含まれる五音音階をはじめとする様々な要素は，中国におけるピアノ文化を形成することにつながっていると考えられる。また近年でいえば，国際的なピアノコンクールにおいて入賞を果たしている李雲迪（ユンディ・リ）や郎朗（ラン・ラン）のようなトップレベルのピアニストの誕生に伴い，中国国内においてピアノブームが加速している。こうしたピアノ学習者が増えている現状を肯定的にとらえるためには，ピアノ学習者がうまく中国ピアノ作品とかかわっていくことが求められよう。

中国ピアノ作品は，今日のピアノ学習者の増加によってより身近な存在となり，また，中国ピアノ作品の創作や演奏などの蓄積によって中国ピアノ文化が構築されている。ピアノ学習者が中国ピアノ作品を演奏することを通して，中国伝統音楽を感じ取る可能性もあるであろう。こうした点からみて，中国ピアノ作品に着目できると考えられる。

つまり中国ピアノ作品を用いることで，ピアノ学習者が，中国伝統音楽と関わりをもつことが可能なのである。例えば現存する中国伝統民謡や伝統器楽曲を編曲した中国ピアノ作品が多い。そうであるならば，完全な伝承ということは難しくとも，中国ピアノ作品の演奏を通して，中国伝統音楽についての知見を深め，さらにそうした中国伝統音楽に関する伝承へとつなげることも期待できるのではないか。

本研究の目的は，中国伝統音楽に関する伝承や新たな中国ピアノ文化の形成につながる，中国ピアノ作品の再整理及び中国のピアノ教育の意義と課題の提示である。主として中国ピアノ作品と中国のピアノ教育の歴史的検討，また，現代の中国のピアノ教育におけるピアノ指導者へのインタビュー調査及びピアノ学習者へのアンケート調査と，各調査の分析によって展開し，現代及び未来における，中国伝統音楽に関する伝承に意義的な中国ピアノ作品や中国のピアノ教育について示す。

第１章　中国ピアノ作品の歴史的概観からみる「伝統性」と中国ピアノ文化

第１章では，建国以前（1949 年以前），建国以降（1949 年－1978 年），改革開放以降（1979 年－現在）の３区分からみる，中国における中国ピアノ作品の歴史を概観し，中国伝統音楽に関する伝承の可能性を考えた。ここでは，中国にピアノが伝来してから創作された多くの中国ピアノ作品及びピアノ伴奏を含む作品が，旋律・リズム・奏法・作品全体の音響という４つの「伝統性」を伝承するということに有効であることを明らかにした。それに関わって，中国ピアノ作品を改めて定義し，加えて，「伝統性」の伝承を視野に入れた新たな中国ピアノ文化の形成，中国伝統音楽と中国ピアノ作品の伝承的視点での関連性について述べた。そして演奏者が「伝統性」を伝承する可能性を高めるために，歴史的に概観する中に出てきた種々の作品の特徴に基づいて，それらの作品を，４つに整理した「伝統性」ごとに配置し，【「伝統性」の伝承に関する中国ピアノ作品の学習曲表】（以下，【曲表】）として，教育の現場で再現可能な形で提示した。

第２章　中国のピアノ教育の歴史的概観からみる「伝統性」と中国ピアノ文化

第２章では，第１章と同様の区分によって，中国のピアノ教育の歴史を概観した。そこから，中国のピアノ教育の歴史をたどる中にみられた２つの時期が，現在の中国のピアノ教育に活用できることを述べた。１つは，「新文化運動時代」の中国のピアノ教育，もう１つは「建国初期」における中国のピアノ教育である。これらの時期における，中国ピアノ作品の創作の推奨や，中国のピアノ教材の運用，種々のピアノ作品のバランスのとれた教育内容が，現在の中国のピアノ教育に適切に活用されるならば，ピアノ学習者の中国ピアノ作品の演奏機会は増えると考えられ，そのとき，ピアノ学習者による，演奏を通した「伝統性」の伝承による新たな中国ピアノ文化の形成がさらに期待されるのである。

第３章　中国のピアノ教育の現状からみる「伝統性」と中国ピアノ文化
—ピアノ指導者に対するインタビュー調査から—

第３章では，第１章と第２章の歴史的検討を踏まえた上で，現状の中国のピアノ教育を視点として，現在，活動している中国のピアノ指導者に対してインタビュー調査を行った。そのインタビュー内容の質的分析によって，「伝統性」の伝承や新たな中国ピアノ文化の形成に関して，中国ピアノ作品を用いる中国のピアノ教育の意義と課題を明らかにした。分析を通して，意義については『中国伝統音楽のピアノ編曲作品への興味関心』，『中国伝統音楽の音楽的特徴への気付き』，『ピアノのもつ多様な役割』，『ピアノによる中国伝統音楽の伝播』が見出された。そこから，中国ピアノ作品を中国のピアノ教育の中で演奏することをはじめ，西洋のピアノ作品との「比較」や中国国内外への「伝播」が，中国伝統音楽や中国ピアノ作品の「中国らしさ」を感じ取り，結果的に「中国らしさ」を「伝統性」として伝承していくことにつながることが明らかになった。課題については，『中国のピアノ教育における中国ピアノ作品の活用の準備不足』，『中国のピアノ教育における中国ピアノ作品演奏のための追求の必要性』が見いだされた。そこから，現状の中国のピアノ教育において，指導者側の中国ピアノ作品に対する姿勢や，中国ピアノ作品の演奏の機会が十分でないこと，入門期から中国ピアノ作品を効果的に学習することについてなど，検討しなければならない課題が浮き上がった。加えて，【曲表】や中国のピアノ教育に有用な歴史上の時期に関する妥当性や改善点が見いだされた。

第４章　中国のピアノ教育の現状からみる「伝統性」と中国ピアノ文化
―ピアノ学習者に対するアンケート調査から―

第４章では，ピアノ学習者を対象に，ウェブアンケート調査を実施し，「伝統性」の伝承と新たな中国ピアノ文化の形成の視点で，現状の中国のピアノ教育について考察した。「中国ピアノ作品への興味・関心」，「中国ピアノ作品の学習状況」，「中国のピアノ教材の使用状況」の３つの視点で検討を進めた結果，「旋律性の強い中国ピアノ作品が好まれているということ」，「既存の中国のピアノ教材が十分に活用されていないこと」，「改革開放以降に創作された中国ピアノ作品からの乖離」，「中国のピアノ教材の内容が不十分であるということ」という４点が得られた。この４点からみる，学習者の傾向を理解し，中国のピアノ教育の課題を解決していく姿勢は，ピアノ学習者による「伝統性」の伝承を期待し，将来的な新たな中国ピアノ文化の形成にもつながるといえる。その際，第１章の【曲表】や第２章の意義的な２つの時期の妥当性や改善点もあわせて提示した。

最終的に，「伝統性」の伝承や，その伝承を可能とする新たな中国ピアノ文化の形成につながる，中国ピアノ作品の取り扱いや中国のピアノ教育の方向性を提示した。それは，中国ピアノ作品をはじめ，西洋のピアノ作品や各種教材を効果的に配置した，再現可能性をもつ【曲表】の活用や，中国のピアノ指導者とピアノ学習者にみる中国のピアノ教育の現状を追究するところに現れた。

終章 本研究の成果と今後の課題

（１）本研究の成果

①　「伝統性」という概念の提示

中国ピアノ作品を演奏することで，漠然と中国伝統音楽を伝承すると言われることが，具体的にどのようなことであるかが明瞭になった。本論文において，「伝統性」について，旋律・リズム・奏法・作品全体の音響の４つの具体を挙げることができた。これらは，もともとは中国ピアノ作品がもっている「中国らしさ」であり，演奏者の中国ピアノ作品の演奏によって伝承される時に，「伝統性」となるのである。中国伝統音楽と中国ピアノ作品という別々のものが，演奏によって生じる「伝統性」の伝承をもって，結び付けられた。ピアノを学習する中国人が非常に多い現代であるからこそ，中国のピアノ教育で，効果的に中国ピアノ作品を用いて，学習者が「中国らしさ」を感じ取り，それらを「伝統性」としてこれから先へと伝承していくことが重要である。

②　中国のピアノ教育における意義的な時期の導出

「伝統性」の伝承や新たな中国ピアノ文化の形成という視点からみて，建国以前における「新文化運動時代」と，建国以降における「建国初期」の中国のピアノ教育に大きな意義がある。「新文化運動時代」の中国のピアノ教育では，上海国立音楽院をはじめとする中国ピアノ作品への着目に焦点化できた。当時の西洋化の潮流に単に沿うだけでなく，中国ピアノ作品が教材として中国のピアノ教育に用いられ，また，ピアニストを輩出するほどの技術面での中国のピアノ教育の推進とあわせて，「中国らしさ」をもった中国ピアノ作品の創作が推奨された。「建国初期」では，本としての中国のピアノ教材が初めて出現した点に意義を見出すことができた。ピアノ学習者の興味に即した中国伝統民謡の編曲作品を主とした教材や，中国ピアノ作品と西洋のピアノ作品，世界各国の民謡をもとにした多種多様な作品が含まれるピアノ教材から，「伝統性」の伝承に関する示唆を得ることができた。「建国初期」の中央音楽学院における，

ピアノ専攻の履修科目として，音楽鑑賞などの中国伝統音楽に関するものが新設されたことも特徴的であった。

③　「伝統性」の伝承の教育的意義と新たな中国ピアノ文化の形成の明確な方向性

「伝統性」は，中国ピアノ作品の演奏を通して伝承できる。これまでの中国ピアノ文化とは異なる，本研究における新たな中国ピアノ文化は，そうした演奏を通した「伝統性」の伝承がなされるところに結果的に現れる。本研究の中では，インタビュー調査の対象者である指導者が，それぞれに新たな中国ピアノ文化の形成に通ずる思想や音楽観をもち，またアンケート調査の対象者である学習者が，中国ピアノ作品への興味・関心を示し，さらに中国ピアノ作品の学習によって，中国伝統音楽や文化に関与する多くの成果を得ていることを明らかにしている。ここから，現代の中国のピアノ教育において，指導者と学習者の両者から，新たな中国ピアノ文化の形成が期待できることがわかった。中国ピアノ作品を演奏することで，４つの「伝統性」を伝承し，そこにある「伝統性」の変容のプロセスも理解することができる。そこから，新たな中国ピアノ文化を形成しうることは，一般大衆音楽の文化が広まる現代で，これと並び立って，「中国らしさ」を保持し続けられるということであって，ここには，「伝統性」の伝承をめざす中国のピアノ教育にみる教育的意義があるのである。

ただし，現在の中国のピアノ教育においては，既存のピアノ作品や本としての中国のピアノ教材を十分に使用していない，改革開放以降に創作された中国ピアノ作品から乖離している，既存の中国のピアノ教材の内容が不十分であるなどの課題も浮かび上がった。これらの課題を解決していくことが重要であり，その姿勢がすなわち新たな中国ピアノ文化の形成に結びついていく方向性を指し示しているのである。

④　「伝統性」の伝承や新たな中国ピアノ文化の形成に関する【曲表】の提示

第１章で，旋律・リズム・奏法・作品全体の音響という４つの「伝統性」を見出し，これらの「伝統性」ごとに，種々の中国ピアノ作品を，再現可能な【曲表】として新たに整理した。さらに，第２章の中国のピアノ教育の歴史的概観や，第３章及び第４章の中国のピアノ教育の現場の指導者や学習者に対する調査を経て，「伝統性」の伝承や新たな中国ピアノ文化の形成の視点から，中国芸術歌曲，琵琶や二胡などによる中国伝統器楽曲といったピアノが伴奏を務める作品も加え，より幅広い「伝統性」の伝承が期待できるようにした。また，相違という視点で，西洋のピアノ作品と比較することの有効性から，バイエルなどの西洋のピアノ教材も追加した。そうして，終章では，第１章の時点からさらに改善された【曲表】を提示することができた。西洋のピアノ作品が中心である現状からみて，幅広いジャンルの中国ピアノ作品と西洋のピアノ作品をバランスよく並列的に配置したり，種々の「中国らしさ」を感じ取ったりできるようにしたことは，これからの新たな中国ピアノ文化の形成を担うピアノ学習者に提示するものとして有益である。付言して，ピアノ学習者が，親しみやすく，興味をもつことができる作品を採用することを視野に入れた点も，ピアノ学習者に提示するものとして効果的であろう。

さらに終章で提示した【曲表】では，「伝統性」を並列的に配置しており，それらを総合的に学習していくことができるところに特筆すべき点がある。今までの中国のピアノ教材になかった，複数の「伝統性」を基軸とし，それに沿って様々なジャンルの作品を配置する方法によって，「伝統性」についても偏りなく学習できる。並列的，総合的に学習することがわかるように作品や教材を表に示したことで，ピアノ学習における現状の把握や今後の展開を検討しやすく，いつでも参照できる具体的な手引きになることも利点である。

（２）　今後の課題

本研究では，中国のピアノ教育のこれからの方向性を提示することができた。そこでは，【曲表】を活用することができる。今後は，その【曲表】を，「伝統性」を伝承していく役割を担うピアノ学習者に対して実際に活用することが重要である。それによって，【曲表】の妥当性を確かめることができたり，さらなる改善点が見出されたりするであろう。そうして，中国のピアノ教育は，「伝統性」の伝承の視点でさらに明瞭に意義づけられ，「伝統性」の伝承と新たな中国ピアノ文化の形成が実現していくのである。

Ⅲ　文献

ⅰ．引用文献・参考文献

（日本語文献）

猪木正道（1995）『軍国日本の興亡―日清戦争から日中戦争へ』中央公論社

王文（2004）「アレクサンドル・チェレプニンと近現代中国のピアノ音楽の発展について」エリザベト音楽大学修士論文

王文（2010）「中国と日本でのアレクサンドル・チェレプニンの活動における音楽教育的意義に関する研究」エリザベト音楽大学博士論文

王盛（2006）「中国における幼児ピアノ教育についての一考察」奈良教育大学修士論文

呉非（2005）「現代中国の初等音楽科教育改革に関する研究」広島大学博士論文

（中国語文献）

卞萌（1996）『中国鋼琴文化之形成与発展』華楽出版社

陳雷（2007）「高等師範音楽専業鋼琴課教学初探」『北方音楽』第 11 期，p.37

陳琛（2020）「高等院校鋼琴学科学術团体建設研究与実践」『江西電力職業技術学院学報』第 33 巻第５期，pp.96-98

陳学恂（1998）『中国近代教育史参考資料』人民教育出版社

陳旭（2001）「中国鋼琴音楽的創作及其啓示」『音楽研究』北方音楽出版社，pp.96-103

蔡渓渓（2013）「俄羅斯鋼琴学派対我国鋼琴教育在建国後十七年間的影響研究」河南師範大学修士論文

鄧愛琴（2020）「基于核心視域的少年宮音楽教育分析」『北方音楽』第２期，pp.142-144

竇木子・黄梅（2017）「中国社会音楽教育鋼琴課程之文化建構」『北方音楽』第３期，p.206

代百生（1999）「根拠伝統音楽改編的中国鋼琴曲的演奏特色」『音楽研究』第１期，pp.51-57

代百生（2013）「中国鋼琴音楽的中国風格」『黄鐘』第２期，pp.3-13

戴海鵬（1991）「丁善徳音楽年譜長編」『上海音楽学院学報』，pp.21-22

董楽（2018）「鋼琴考級現状的調査研究――譲鋼琴考級説“中国話”」中国音楽学院修士論文

賈蜜蜜（2012）「完善業余考級的思考」『北方音楽』第２期，p.64

季恵斌（1999）『楽府新声』楽府新声出版社

馮効剛（2007）「20 世紀前半的中国鋼琴音楽文化」南京芸術学院博士論文

寥紅宇（2010）「福建鋼琴音楽発展歴史研究」福建師範大学博士論文
李延君（2018）「伝統音楽的伝承与発展」『芸術品鑑』第９期，pp.56-57
瀏忠徳（1996）「深化改革 促進発展 建設有中国特色的社会主義芸術教育事業」『芸術教育』第５期，p.7
馬爽（2015）「浅談中国鋼琴作品在高師鋼琴教学中の重要性和意義」『北方音楽』第２期，pp.195-196
藩虹宇（2018）「試論中国鋼琴去育的現状与対策」『大衆文芸』第 22 期，p.230
司徒壁春・陈郎秋（1999）『鋼琴教学法』西南師範大学出版社
蘇玉恒・瀏夢笛（2017）「関与新文化運動時期的価値観重建及其啓示研究」『神州文化』 第２期，pp.12-13
孫迎春（2010）「談鋼琴考級活動的目的及意義」『大衆文芸』第 24 期，p.172
呉雪茵（2011）「高師鋼琴教学中関于中国鋼琴作品的研究」東北師範大学修士論文
王盛（2018）「鋼琴技術与鋼琴芸術的区別和聯系」『南通大学学報』第 34 巻第５期，pp.106-111
王盛（2020）「中国鋼琴作品的演奏技術特点分析」『北方音楽』第 10 期，pp.41-45
王躍華・杜亜雄（2013）『中国伝統音楽概論』福建教育出版社
王艶莉（2010）「捕房楽隊到職業管弦楽隊―略論上海工部局楽隊的歴史沿革」『哈爾濱師範大学芸術学院学報』pp.142-143
楊涵（2019）「音楽表演専業鋼琴基礎課程教学内容改革研究」『黒河学院学報』第４期，p.46
中国音楽研究所〔編〕（1959）『中国近現代音楽参考資料第１部』中国人民音乐出版社
張少宇（2014）「関于業余鋼級的一点思考」『学理論』第 26 期，p.207
張怡（2004）「浅析黄自芸術歌曲鋼琴伴奏特点」『中国音楽』第１期，p.95
張燕南（2010）「中国鋼琴音楽与鋼琴教育的発展―二者歴史的鳥瞰」上海音楽学院修士論文
周広仁・杜永寿他（2003）『鋼琴芸術』人民音楽出版社
周汀亭（2009）「論中国鋼琴作品」西北師範大学修士論文
周為民（2010）「中国鋼琴教育的歴史与発展」『中国音楽』第２期，pp.144-150
趙雲（2010）「文化視域中的中国当代鋼琴教育」華東師範大学博士論文

ⅱ. Web 資料

劉瑶琪（2019）「中国琴童総数達 3000 万併以毎年 10％的速度増長」慧聡教育網
http://info.edu.hc360.com/2019/11/220925840201.shtml （2020 年７月 15 日閲覧）
浙江音楽学院 https://www.zjcm.edu.cn/xywz/zygk/xyjj/index.html （2020 年 11 月 17 日閲覧）
南京暁荘学院 http://www.njxzc.edu.cn/4/list.htm （2020 年 11 月 17 日閲覧）
南京暁荘学院音楽学院 http://music.njxzc.edu.cn/xyjj_7408/list.htm （2020 年 11 月 17 日閲覧）